

住吉神社例大祭 用語集

用語	読み・意味	解説
住吉講	すみよしこう	祭りを実質的に取り仕切る組織。昭和 23 年に発足し、かつての佃の漁師に代わって祭りを運営しています。一部（上町）、二部（下町）、三部（東町）に分かれており、所属する者だけが獅子頭を担ぐことができます（女性は入講不可）。
連合睦会	れんごうむつみかい	各町会の連合組織。「新佃」「月壱」～「月四」、「晴海」、「月睦（勝どき）」などが参加し、住吉講と共に祭りを運営します。
若衆・大わかしゅう・若衆・世話人	おおわかしゅう・せわにん	住吉講の階級。若衆から始まり、大若衆、世話人へと序列が上がります。世話人になるには約 20 年以上かかると言われています。
新べり	しんべり	住吉講に入ったばかりの新人（新縁）のこと。
揃衣	そろい	祭り着（浴衣）のこと。世話人、大若衆、若衆といった役割ごとに異なるデザインの揃衣を着用します。例大祭ごとに新調され、本人のみが使用します。住吉講はこれに白足袋を合わせるのが決まりです。
八角宮神輿	はっかくみやみこし	天保 12 年（1841 年）に作られた大神輿。天皇の即位式で使われる「高御座（たかみくら）」を模した八角形をしており、全国的にも珍しい形状です。
獅子頭	ししがしら	祭りの初日に「宮出し」が行われ、神輿が通る道を清める役割を持ちます。鼻面に触れると縁起が良いとされ、若衆たちが我先にと競って担ぎます。雌雄があり、角や擬宝珠（ぎぼし）で見分けられます。
黒駒の獅子・龍虎の頭	くろこまのしりゅうこのかしら	佃の町中だけで子供が担ぐ獅子や、火災の際に風向きを変えた伝説を持つ龍虎の頭など、中には区の文化財に指定されているものもあります。
大幟	おおのぼり	寛政 10 年（1798 年）に幕府から許可された 6 本の大幟。祭りの期間中、江戸城から見て扇形に見えるように町内 6 カ所に立てられます。
大幟の柱・抱木	おおのぼりのはしら・だき	大幟を支える巨大な柱と土台（抱木）。普段は腐食を防ぐため佃堀の泥の中に埋められており、本祭りの約 1 ヶ月前に掘り出されます。
船渡御	ふなとぎよ	宮神輿を船（御座船）に乗せて氏子地域（隅田川や晴海沖など）を巡る行事。かつては神輿を海に入れていましたが、現在は船に乗せて行われます。
御旅所	おたびしょ	神様が巡行の途中で休憩・宿泊する場所。現在は勝どき 4 丁目にあり、宮神輿はここで一夜を過ごします。
御仮屋	おかりや	祭り期間中、宮神輿や町内神輿、獅子頭などを安置するために町内に設けられる仮の施設。
参拝式	さんぱいしき	例祭の前夜、住吉講や連合睦会が揃って住吉神社に参拝し、祭りの無事を祈る儀式。
御霊遷し	みたまうつし	神社の御神体を神輿に移す儀式。灯りを消して厳粛に行われ、神様を上から見下ろすことは禁止されています。
差せ！	させ	神輿を高く掲げること。「神様をより高く捧げる」という意味が込められています。
おりゃ	おりゃ	神輿を担ぐ際の独特の掛け声。「俺や、俺や（我を張る＝頑張る）」が語源とされています。